

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">病態検査学</p>	<p>対象学科・学年 薬学部薬学3 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">田中 静吾 竹橋 正則</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">症候と臨床検査値による病態把握</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>適切な薬物治療を行うためには、患者さんの体の病的変化を正しく理解しなければなりません。そのためには、症候（患者さんの示す様々な訴えや診断所見）と臨床検査値の知識が必要です。本科目では、症候と代表的な疾患との関連と、臨床検査値に関する基本的知識の修得を目的とします。（薬学教育モデル・コアカリキュラム C14(1)「体の変化を知る」に対応。A(3)「信頼関係の確立を目指して」の一部にも対応。）</p>		
<p>評価方法</p> <p style="text-align: center;">出席状況と期末テストにより評価する。</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">薬剤師のための臨床検査ハンドブック</p>	<p>著者 前田晶子・高木康 編著</p>	<p>出版社 丸善株式会社</p>
<p>参考書</p> <p style="text-align: center;">スタンダード薬学シリーズ6 薬と疾病 II. 薬物治療 (1)</p>	<p>著者 日本薬学会編</p>	<p>出版社 東京化学同人</p>
<p>授業スケジュール・内容（かつこ内は薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける該当する到達目標を示す。）</p> <p>1～4. 症候と疾患（発熱・頭痛・発疹・黄疸・チアノーゼ・脱水・浮腫・悪心・嘔吐・嚥下障害・腹痛・下痢・便秘・腹部膨満・貧血・出血傾向・胸痛・心悸亢進・動悸・高血圧・低血圧・ショック・呼吸困難・咳・口渇・月経異常・痛み・意識障害・運動障害・知覚障害・記憶障害・しびれ・けいれん・血尿・頻尿・排尿障害・視力障害・聴力障害・めまいなどの症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。）</p> <p>5. 血液ガス分析/バイタルサイン（動脈血ガス分析の検査項目を列举し、その検査値の臨床的意義を説明できる。代表的なバイタルサインを列举できる。）</p> <p>6. 肝疾患と臨床検査（代表的な肝臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げるができる。）</p> <p>7. 腎疾患と臨床検査（代表的な腎臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げるができる。）</p> <p>8. 呼吸器疾患と臨床検査（代表的な呼吸機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げるができる。）</p> <p>9. 循環器疾患と臨床検査（代表的な心臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げるができる。）</p> <p>10. 血液疾患と臨床検査（代表的な血液および血液凝固検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。）</p> <p>11. 内分泌・代謝疾患と臨床検査（代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げるができる。）</p> <p>12. 感染症と臨床検査（感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べるができる。）</p> <p>13. 悪性腫瘍と臨床検査（悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列举し、推測される腫瘍部位を挙げるができる。）</p> <p>14. 尿・糞便検査と疾患（尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げるができる。）</p> <p>15. 期末テスト</p>		